

## [普及事項]

新技術名：秋田県版ネギ栽培マニュアルの作成（平成 20～30 年）

研究機関名 農業試験場 野菜・花き部 野菜担当  
担 当 者 本庄求・武田悟

## [要約]

新たに開発されたネギの作型や新たに得られたネギの研究成果を掲載するとともに、ネギの栽培に初めて取り組む生産者が、栽培方法や一連の作業内容を理解しやすいように写真や図を多く使用した秋田県版ネギ栽培マニュアルを作成した。

## [普及対象範囲]

県内全域

## [ねらい]

本県のネギについては、1997 年度における販売額（JA 系統）は 5.5 億円であったが、20 年後の 2017 年度では 21.2 億円と県内野菜の中で最も多くなり、名実ともに秋田の顔となる野菜に成長した。そのため、ネギ栽培に関心を持つ生産者が増えてきており、本県で進めている「メガ団地等大規模園芸拠点育成事業」においても、新たにネギ栽培に取り組む生産者が多い。そこで、新たに開発された作型や新たに得られた研究成果を掲載するとともに、ネギの栽培に初めて取り組む生産者が、栽培方法や一連の作業内容を理解しやすいように写真や図を多く使用した秋田県版ネギ栽培マニュアルを作成する。

## [技術の内容・特徴]

- 1 本マニュアル（図 1）は、全 69 ページで、作型ごとに 4 章からなる（表 1）。
- 2 第 1 章の「越冬大苗 7 月どり作型」（表 1）は、これまで困難であった 7 月からの収穫を可能とする新たな作型である。無加温ハウスで前年の 10 月 20 日頃にチェーンポットに 1 穴当たり 1 粒播種して大苗を育成する（図 2）。本マニュアルでは、「越冬大苗 7 月どり作型」の栽培方法について詳細を記載し、これをとおしてネギ栽培に必要な基本的な内容を説明している。
- 3 第 2 章の「越冬大苗 8 月どり作型」（表 1）は、「越冬大苗 7 月どり作型」に続く作型として新たに開発された作型である。8 月に単価の高い太いネギを収穫するために、チェーンポットの 1 穴当たり播種粒数（株間）を慣行の「夏どり作型」の 2 粒（表 1）より減らし、1.3～1.5 粒とする（図 3）。
- 4 主な研究成果として、①土壌養分がある一定以上の水準であれば、株間が制限要因となり、窒素施肥量を多くしても生育が促進されない（図 4）、②軟白は最新展開葉の葉鞘部が土寄せによって白いまま伸びることで生じ、その後 3 枚展葉すると出荷が可能となる（図 5）、③土壌処理剤を用いた除草剤体系で作業時間が大幅に削減される（図 6）ことを掲載し、これらの研究成果から、施肥方法と土寄せ及び除草作業スケジュールを具体的に解説している。

## [成果の活用上の留意点]

- 1 本マニュアルは栽培方法や一連の作業内容が理解しやすいように写真や図を多く使用した。
- 2 本マニュアルは 1,500 部発行し、秋田県内のネギ生産農家全戸へ配布する。

